「役に立つ仕事」

第１組　法運寺　堀　亮運

『きかんしゃトーマス』をご存知でしょうか？

擬人化された蒸気機関車たちが活躍するイギリスの幼児向けアニメーション作品で、世界各国で放映されています。

丸い顔のついた機関車の容姿が印象的なので、詳しくは分からないけれどなんとなくは知っているという方も多いのではないでしょうか。

このお話は、個性的な機関車たちが、それぞれの特徴を活かして、協力する事で問題を解決していく物語なのですが、その中で機関車たちが「役に立つ仕事」という言葉をよく口にします。

機関車たちは、仕事をあたえられると「役に立つ仕事ができるぞ！」と喜んで頑張って働き、故障や事故で走れなくなると「役に立つ仕事が出来ない」と嘆きます。

そして、「まだ役に立つ仕事が出来るんだ」と奮起し、仕事に復帰すると「また役に立つ仕事ができるぞ」と喜びます。

この物語の機関車たちは、それぞれが個性を活かして活躍し、役に立つ仕事をする事こそが自身の価値と認識しているようです。

現代を生きる私たちも同じように、誰かのあるいは何かの役に立てることが自身の価値と感じているのではないでしょうか。

そして、機関車たちのように、それぞれの個性を活かして協力し、何かを成し遂げることこそが理想的な姿であると感じているのではないでしょうか。

トーマスたち機関車は、仕事をする為に作られた機械ですので、自己の存在意義が役に立つ仕事をする事であるのもうなずけますが、私たちは人間です。

はたして私たち人間の存在の意義も役に立つ仕事をする事なのでしょうか。

お釈迦さまは、お生まれになってすぐに七歩あゆまれ「天上天下唯我独尊」と言われたと伝えられております。

この言葉は誤解される事も多い言葉ですが、おおまかな意味としては、我々はそれぞれ一人一人が存在そのものとして尊いのであり、それぞれには上も下も無く、また他者と比較され価値づけされるものでも無いのだ。というような言葉です。

何ができるから、何をしたから、ということは一切関係なく、ただ存在そのものが尊いというこの感覚、親子の関係の中では親が子に対して感じたりするような感覚に近いようにも思いますが、これが自分自身の事や社会の中での事となると、全く忘れてしまっているようにも感じられます。

現代の社会の中では、自分の個性を活かす、ということも簡単ではありませんし、自分の仕事が誰かの役に立つというのも、とても嬉しい事です。

しかし、それがすべての価値になってしまうと、役に立つ仕事が出来なくなったら、自分自身の価値が無くなってしまう事になり苦しむことになります。

ただ存在そのものが尊いのである、という感覚、その願いの中に私たちは生まれ生きているのだということ、日常の中でついつい忘れがちにはなりますが、この事を確かめながら日々を過ごすことも大切な事なのではないでしょうか。